

科目	受験生記入欄		
学力検査 (音楽環境創造) (第1回) 4枚のうちの1枚目	学科:	楽器:	受験番号
			番

(ア)

(イ)

答えは、すべて解答用紙に書きなさい。

問題1. 次の 1) から 5) の問題に答えなさい。1) から 3) は、楽譜を見て答えなさい。

- 1) ①から⑤の音程を答えなさい。
- 2) 線で囲まれた a、b、c の和音の種類を日本語で答えなさい。
- 3) 下線部 A の部分は何調か、日本語、英語、またはドイツ語で答えなさい。
- 4) 次の設問に答えなさい。音名・調名は日本語、英語、またはドイツ語を使用すること。
  1. A dur (イ長調) の平行調は何調か。
  2. E dur (ホ長調) の音階の属音を主音とする長調は何調か。
  3. B dur (変ロ長調) の IV 度の和音の構成音を述べよ。
  4. F dur (ヘ長調) の同主調の音階 (構成音) を述べよ。ただし自然短音階のみとする。
- 5) 次の音楽用語の意味を日本語で解答欄に書きなさい。
  1. a tempo (ア・テンポ)
  2. spiccato (スピッカート)

科 目	受 験 生 記 入 欄		
	学力検査 (音楽環境創造) (第1回) 4枚のうちの2枚目	学科:	楽器:

(ア)
-----

(イ)
-----

問題2. 次の1)から4)の文章の( )の中に入る適切な語句を選び、その番号を解答欄に書きなさい。

1) 大規模な( 1 ) 声楽曲のジャンルの一つにオラトリオがある。「オラトリオ」の語は元来( 2 )を意味し、このジャンル名は、もともと信者たちが自主的に催していた歌唱を伴う宗教的修養のための集会にその起源を遡るとされる。やがて、オペラが上演されない期間に、その代替物として劇場でも演奏されるようになる。オペラ同様、管弦楽の伴奏による独唱・重唱・合唱等の独立した楽曲の連鎖によって構成されるが、主として宗教的な題材を持ち、演技や舞台装置なしに上演される点が異なる。ヘンデルは、聖書中のキリストについての言及を綴り合わせた台本による《メサイア》を始め、《サムソン》、《( 3 )》など多数の英語オラトリオを作曲した。古典派では、( 4 )作曲の《天地創造》などが重要である。なお、キリストの受難を題材とする「受難曲」のうち、特にバロック時代に多数作曲されたオラトリオ形式、もしくはそれと類似した形態によるものは、オラトリオの特殊なタイプと位置づけることができる。( 5 )作曲の《マタイ受難曲》はその特に有名な例である。

1. モーツァルト      2. 教会      3. オリーブ山上のキリスト      4. ハイドン      5. 叙情的  
 6. 祈祷所      7. 劇的      8. ベートーヴェン      9. ユダス・マカベウス      10. ヴィヴァルディ  
 11. 典礼的      12. 四季      13. ヨハン・ゼバスティアン・バッハ      14. 修道院  
 15. キリストの幼時

2) 「ソナタ形式」という概念は、( 1 ) 世紀半ば近くになって A.B. マルクスによって導入された。その大きな問題点は、それが歴史的に先行するヴィーン古典派などの作品にも遡及的に当てはめられてしまい、背景にある思考の違いが等閑視されてしまったことにある。ソナタ形式が順に提示部、( 2 )、再現部という三つの中核的な部分から成るのに対し、その起源となる形式は( 3 ) 部分から成っていた。また、ソナタ形式の概念においては、( 4 ) の対比が重視されるのに対し、18 世紀にはそれが認められないことも多く、枢要と見なされていたのは、対比的な調で提示された素材が( 5 ) で再現されるということのみであった。こうした基本的な理解は、J. ハイドンや W.A. モーツァルトの楽曲を分析する際には欠かすことができない。

1. 18      2. 19      3. 20      4. 緩徐導入部      5. 展開部      6. コーダ      7. 接続  
 8. 2      9. 5      10. 主調      11. 属調      12. 近親調      13. 調      14. 主題  
 15. 強弱

3) 「ポストモダン」の概念は定義が難しいが、それは音楽領域でも同様である。ただし、( 1 ) の放棄や( 2 ) 生成された音の導入などの帰結として極度に複雑化し、一般的な音楽愛好家の求める音楽像から乖離するに至っていた現代音楽を否定するかのよう創作された、より( 3 ) かつ叙情的な音世界に基づく1970年代の作品群の「反モダニスト」的傾向に対して「ポストモダン」という語を用いるのは、あながち的外れではない。ただし、その射程は広く、後期ロマン主義の代表的シンフォニスト、( 4 ) の作品や異なる著者のテキスト等から引用を通じて多層的な表現世界を映し出す《シンフォニア》(L. ベリオ作曲) や、ポーランド人作曲家( 5 ) やエストニア出身のアルヴォ・ペルトの創作に代表されるような、祈りにも似た音楽体験を促す瞑想的かつ叙情的な作品は、しばしば「ポストモダン」の文脈で語られてきた。

1. 調性的      2. 機能和声      3. ヨハン・クリスチャン・バッハ      4. グスタフ・マーラー  
 5. 電子的に      6. ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン      7. ピアノ・コンチェルト  
 8. ヴァイオリンで      9. ヘンリク・グレッツキ      10. 民謡を用いて  
 11. レナード・バーンスタイン      12. 教会旋法

科 目	受 験 生 記 入 欄		
学力検査 (音楽環境創造) (第1回) 4枚のうちの3枚目	学科：	<del>楽器：</del>	受 験 番 号 番

(ア)
-----

(イ)
-----

問題2 (続き)

4) 日本を含む東アジアでは、板状もしくは箱状の細長い胴に単数または複数の弦を張った楽器、いわゆる「こと」が古くから愛用されてきた。こうした楽器は、胴の上に柱(じ)を立てて調弦するタイプと、柱をもたないタイプに大別される。日本で最もよく知られる「こと」である箏(そう)は前者に属するが、箏が伝来する以前、弥生時代から古墳時代の日本列島にはすでに「こと」が存在していた。そうした古代の「こと」の姿は、静岡県(1)の遺跡から出土した木製品や、埴輪に象られた楽器から推定され、それらは現在でも宮中や神社の祭祀儀礼で用いられる(2)の祖形とも考えられている。奈良の正倉院には、(2)、箏とともに「新羅琴」と呼ばれる、柱を立てる十二弦の「こと」が伝えられた。この楽器は独特の形状から、現在の韓国で盛んに演奏される(3)の古い姿であるとわかる。一方、柱をもたない「こと」としては中国で古い歴史をもつ琴(きん)または古琴がある。七絃琴とも称されたこの楽器は、(4)階級の男性が教養として重んじたことから、独自の楽譜、理論、思想、演奏マナーなどが彼らによって伝承された。さらに近代日本で発明された、柱をもたないタイプの「こと」に(5)がある。(5)はその簡便さから日本国内のみならず海外に普及し、とりわけインド、パキスタンでは大衆音楽や宗教歌謡に用いられるに至った。

1. 瑟      2. 玄琴      3. 伽倻琴      4. 洋琴      5. 胡琴      6. 十七絃      7. 和琴  
8. 大正琴      9. 沖ノ島      10. 三内丸山      11. 登呂      12. 吉野ヶ里      13. 士大夫  
14. 武人      15. 道士      16. 遊牧民

問題3. 次の設問に答えなさい。

1) 次の芸術家の代表的な作品名をa～iのうちから選び、それぞれ解答欄に記入しなさい。

- ①エドゥアール・マネ  
②パブロ・ピカソ  
③マルセル・デュシャン  
④ジャン＝リュック・ゴダール  
⑤クロード・モネ

- a. 気狂いピエロ      b. ヴェニスに死す      c. 草上の昼食      d. モナ・リザ  
e. 印象・日の出      f. 種をまく人      g. ゲルニカ      h. 夜警      i. 泉

2) 上記1)で選んだ作品を古いものから新しいものに並べるとどのような順序になるか、作家名の番号で示したア～オから選びなさい。

古い ○→○→○→○→○ 新しい

- ア. ⑤→①→③→④→②  
イ. ①→⑤→③→②→④  
ウ. ①→⑤→②→③→④  
エ. ⑤→①→③→②→④  
オ. ④→⑤→③→②→①

科目	受験生記入欄		
学力検査(音楽環境創造) (第1回) 4枚のうちの4枚目	学科:	<del>楽器:</del>	受験番号 番

(ア)

(イ)

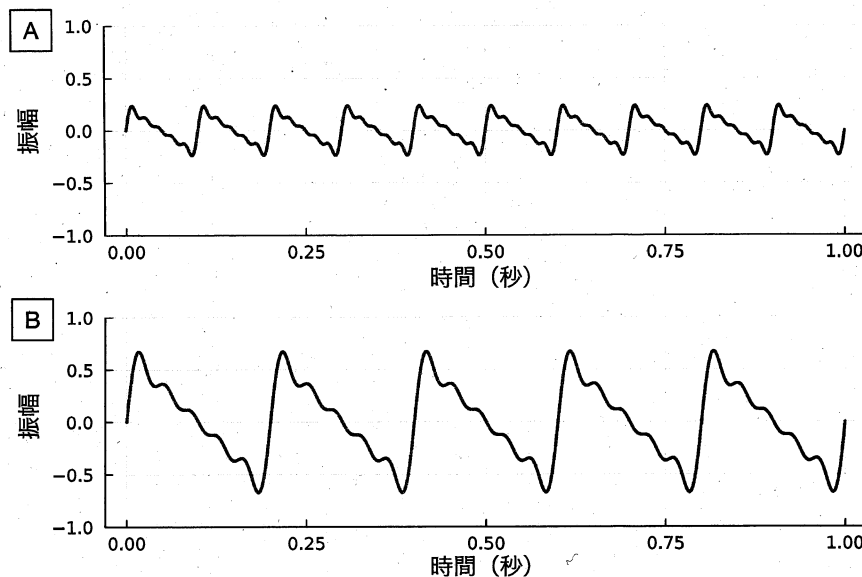
問題4. 次の文章の( )の中に入る適切な語句を選び、その番号を解答欄に書きなさい。

シンセサイザーやコンピュータなど20世紀に入って発明された新しいテクノロジーは音楽の状況を一変させた。第二次世界大戦が終わるとフランスでは、ピエール・シェフェールやピエール・アンリらによって、街の音など具体音を編集して楽曲を作る(1)が始まり、ドイツでは(2)が電子音を用いた電子音楽作品を次々と発表し、作曲の方法論を大きく変えた。こうした動向は1960年代から1970年代にかけてポピュラー音楽へと広がり、電子音楽の教育を受けたドイツの(3)というグループがのちにテクノポップと呼ばれる音楽を生み出す。こうした動向に応じるように日本でも多くの実験的な動向が見られた。シンセサイザーを使った楽曲としてはすでに1970年代に(4)がモーグ・シンセサイザーを用いて多重録音を行い「月の光」や「展覧会の絵」などの作品を発表し、世界的にも注目を集めた。コンピュータをもちいたデスクトップミュージックはその後も進歩し続け、特に2000年代に入ると音声合成しリアルな歌声を生成する(5)が、ポピュラー音楽の音楽制作環境を大きく変容させた。

1. ジョン・ケージ      2. サウンドスケープ      3. ミニマル・ミュージック  
 4. ミュージック・コンクレート      5. ヤニス・クセナキス      6. ピエール・ブーレーズ  
 7. カールハインツ・シュトックハウゼン      8. ベンチャーズ      9. クラフトワーク  
 10. イエロー・マジック・オーケストラ(YMO)      11. 坂本龍一      12. 富田勲      13. 小室哲哉  
 14. ビートルズ      15. ボーカロイド      16. シーケンサー      17. リズムマシーン

問題5. 次の文章の( )の中に入る適切な語句を選び、解答欄に書きなさい。なお、(6)に関しては適切な数を解答欄に書きなさい。

シンセサイザーで作った二つの音を記録し、コンピュータを使って音波を調べることにした。すると、下図のような波の形を見ることができた。単位時間あたりの振動数が大きいのは(1)なので、(1)のほうが音は(2)感じられると予想できる。また、振幅が大きいのは(3)なので、(3)のほうが音は(4)感じられると予想できる。二つの音を比べると、(5)のほうが波長が長いこともわかった。(5)の周波数は(6)ヘルツである。



- (1) A, B  
 (2) 高く, 低く  
 (3) A, B  
 (4) 大きく, 小さく  
 (5) A, B  
 (6) (適切な数を解答欄に記入しなさい)

科目	受験生記入欄		
学力検査 (音楽環境創造) (第1回) 1枚のうちの1枚目	学科:	<del>楽器:</del>	受験番号 番

(ア)
-----

(イ)
-----

問題 1.

1) ① ( )      ② ( )      ③ ( )

④ ( )      ⑤ ( )

2) a ( )      b ( )      c ( )

3) ( )

4) 1 ( )      2 ( )

3 ( )

4 ( )

5) 1 ( )

2 ( )

問題 2.

1) 1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )

2) 1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )

3) 1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )

4) 1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )

問題 3.

1) ① ( )      ② ( )      ③ ( )      ④ ( )      ⑤ ( )

2) ( )

問題 4.

1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )

問題 5.

1 ( )      2 ( )      3 ( )      4 ( )      5 ( )      6 ( )